

春日山懐古（大槻磐溪）

春日山頭鎖晚霞 驛騶嘶罷有鳴鴉
憐君獨賦能州月 不詠平安城外花

解説 上杉謙信が信長との決戦を前に急逝し、京都に上って天下に号令する目的を果たさなかったことを同情した詩。

春日 山頭 晚霞に 鎖さる

語釈 ※春日山 新潟県高山市の北西部にあつて城跡を残している。

驛騶 嘶き 罷んで 鳴鴉 有り

※晚霞 夕映え。 ※驛騶 謙信の乗った名馬のこと。 ※賦能

州月 謙信が能登の七尾城を攻略したとき、詩を詠じたが、その転句に「越山併得能州景」とあつたのをさす。 ※平安城 京都。

※不詠花 謙信が上京して天下の権をとり、洛外の花を詠むことが出来なかつたのを惜しんだ。

憐む 君が 独り 能州の 月を 賦して

通釈 上杉謙信の居城、春日山の跡に来てみれば、山一面、夕映

平安 城外の 花を 詠ぜ ざりしを

えに照り輝いて、謙信の名馬のいななきも聞こえず、ただものさびしく鴉が鳴いているだけである。謙信ほどの英雄が、空しく僻地の月のみをめるとどまり、京都に上って天下の統一を果たして、京都の花を詠むこともなく、身を終えたことは、まことに

気の毒でならない。